学び合いの中で考えを交流しながら読みを広げていく子ども

―　小学２年「神話を楽しもう～『いなばの白うさぎ』を起点として」の実践から　―

１　授業の構想

(1) 子どものとらえについて

子どもたちは，小さいときから昔話を聞いて育っている。桃太郎をはじめとする昔話は本を読んだことはなくてもどこかで耳にし，ストーリーを知っている子どもも多い。しかし，神話は，昔話ほど聞いたことがある子どもは多くない。出雲地方は神話の発祥の地であり，子どもたちの周りには，神話に関係する言葉や物がたくさんある。そのような地域に育つ子どもたちに神話のお話を読む楽しさを味わわせたいと考えて本単元を構想した。子どもたちは今までに物語教材を通して登場人物の行動を読み取り，場面の様子を想像する学習をしてきている。また，説明文では順序を考えて内容を読み取る学習をしてきた。次の文章は「ふきのとう」の学習後の児童Ａのふりかえりである。

【４月22日(金)】　今日の話し合いで，Ｓちゃんがすごいことに気がついていました。竹やぶがゆれるゆれるおどる雪がとけるとける……（中略）……というのを言っていて，すごいと思いました。こんど私もＳちゃんのようなすごいこと言いたいです。
【４月25日(月)】　今日，グループれんしゅうで，ふきのとうを読んで，さいしょはＴくんは，「よいしょ，よいしょ，おもたいな。」と「よいしょ，よいしょ，外が見たいな。」のところが気もちがこもってなくて，おしえてあげたら気もちがこもっていたのでよかったです。
【４月28日(木)】　今日，ふきのとうのはっぴょう会がありました。みんなたくさんれんしゅうしてじょうずになっていてすごいなと思いました。Ｍちゃんのグループは，「もっこり」のところをしゃがんで体でやっていて，それもいいな～と思いました。みんなちがう考えがうかんで，やり合うと楽しいんだなーと思いました。

児童Ａは「ふきのとう」で音読練習をするときに，グループや学級全体での話し合いで友だちの読みのよさに気づいたり，読みのアドバイスをしたりしている。一人で読むよりもかかわりをもって学ぶことで，内容を一層深めることができたことを喜び，自分と異なる考えを交流する楽しさを感じている。このように学び合いのよさを感じ始めているこの時期に，新しい教材として神話に触れ，感想を交流し合うことは，読書の幅を広げ，自ら読もうとする意欲をもつことに有効であると考える。１年生のときから経験しているペアでの学習や全体での話し合いなど，有効な関わり合いの形態を考えて取り入れながら，よりよい学び合いの中で読みを広げていくことの楽しさを味わってほしいと願っている。

(2) 本単元の目標や内容と国語科で考える思考力・判断力・表現力の育成との関わりについて

本単元のねらいは，３つの神話を読み，それぞれのお話の感想を交流し合うことを通して，神話の特徴に気づくことで，神話に興味をもち，自ら読んでみようとする意欲をもつことに設定した。そのために取り上げる神話を「いなばの白うさぎ」「国びき」「やまたのおろち」の３つとする。「いなばの白うさぎ」は，白うさぎの語り部分を挟んだ３つの場面からできている。白うさぎが語る部分は，いかにしてこのような状況に陥ったかが描かれ，白うさぎのとった行動がかぎとなっており，登場人物の行動を中心に場面の様子をとらえる学習に適している。また，意地悪な兄の神たちと優しいオオクニヌシとの対比は人物像をとらえやすいと考える。「国びき」は，ヤツカミズオミツノという神様が，出雲は狭いから大地を引っ張ってくるという話で，『出雲国風土記』だけに書かれている。とてつもないスケールの大きさに子どもたちは驚くだろう。リズムのある繰り返しの文もこの神話の特徴の一つである。「やまたのおろち」は，「いなばの白うさぎ」と同様に３場面でできている。スサノオがクシナダヒメに出会い助けるために，やまたのおろちと闘う場面は迫力があり，場面の様子を想像するのに適している。最後に幸せな結婚をするという終わり方も，似たような話がありわかりやすい。子どもたちは，スケールの大きさに加えてスリルを楽しむであろう。

３つの異なる神話に出会い，それぞれのお話の感想をもち，神話というジャンルのもつ特徴に気づくことが他の神話に興味をもち，自ら進んで読みを広げていくことにつながると考える。

(3) 11年間で育てる思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構想について

初等部前期における授業は，音声言語と，具体的な事物，事象などを結びつけることを大切にし，文章の中に自己を置くことで，楽しみながら読みを広げることに重点をおく。そこで，本単元を展開するに当たっては，まず，第１次で３つの神話には読み聞かせで出会い，アニマシオンやクイズを取り入れながら，楽しく大まかなあらすじをとらえる。次に思ったことを書き込み，感想をもつ。初発の感想では，お話によって，優しいと思ったり，迫力があると思ったりする記述が出るであろう。感想をもとに登場人物の行動を中心に場面の様子を話し合う。場面の読み取りでは，動作化をしたり，挿絵を描いたりすることで神話の世界を想像し広げる手助けとしたい。様々な感想を交流し合うことで，自分の思いをはっきりさせ，異なる考えを認め合い，読みを広げていくことができると考える。

第２次では，３つの神話の中から１つだけ選び，学級新聞で全校へ紹介する。２年生しか学習しない神話の面白さを全校へ紹介するということで，どれを選ぶか考えるであろう。選ぶ視点の中には，相手意識も生まれ，自分の好みだけでなく，全校へ紹介するとしたらという視点も生まれるであろう。選んだ理由を話し合うことにより，一つひとつのお話に対する感想だけでなく，神話全体の特徴をとらえて感想をもつことにつながると考える。２年生の児童たちなりに神話をとらえ，感想をもつことでこれから他の神話を読んでみたいという意欲につなげたい。学級新聞は，廊下に貼り，学級の児童だけでなく全校児童の目に触れるようにし，神話の面白さを広めたいと考える。

第３次では，学習後にほかの神話に対して興味をもつように，手に取って読むことができるよう神話の本を用意する。神話のパターンをいくつか手にすることによって，神話に対するイメージを広げ，さらに次の神話を自分で読んでいこうという意欲につなげたいと考える。

2　展開計画

<table>
<tr><th>次</th><th>主な活動</th><th>時</th><th colspan="2">具体的な学習・内容（◇印は，学級全体の学び合いの場面）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">「いなばの白うさぎ」「国びき」「やまたのおろち」の内容を読み取り，場面を想像する。</td><td>1,2
3,4
5,6</td><td>「いなばの白うさぎ
「国びき」
「やまたのおろち」</td><td>1，3，5時
・読み聞かせを聞く。
・お話の登場人物，場面の様子を簡単に押さえ，初発の感想を書く。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2，4，6時
・お話の感想を交流し合い，場面の様子を想像して話し合う。
◇自分の感想をもち、交流することができる。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>「いなばの白うさぎ」「国びき」「やまたのおろち」の中からいちばんのお気に入りを選び，学級新聞に載せる紹介文を書く。</td><td>7
8</td><td colspan="2">・学級新聞に紹介するために３つの中でいちばん気に入った話を選び，選んだ理由を話し合う。
◇理由を交流しながら、神話の特徴に気づくことができる。
・学級新聞に載せる紹介文を書く。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>他の神話を読み，お気に入りの神話を紹介する。</td><td>9,10</td><td colspan="2">・他の神話を読む。
・好きな神話を選び，紹介し合う。</td></tr>
</table>

3　「学び合い」による思考力・判断力・表現力の評価

単元構成において設定した学び合いの場面の書き込みや発言，ふり返りから，自分の感想を友だちの感想と交流し合うことにより，個の読みがどのように広がったり深まったりしているのかを分析して，思考力・判断力・表現力を評価した。第１次では，それぞれのお話の感想交流を通して主に思考力の広がりを評価し，第２次では個々の神話の感想から神話全体の特徴をとらえる場面での思考力・判断力・表現力がどのように高まったかを評価した。お話の内容が異なるため，児童の評価が単元を追うごとに高まっていく様子をとらえることは難しいが，文章表現の中に見られる他とのかかわりを大切にして評価していき，他の意見と比べて自分なりの選んだ理由をはっきりさせて述べているものをＡ評価としている。

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
1	2 4 6	「いなばの白うさぎ」「国びき」「やまたのおろち」のお話の感想を交流し合う。	場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。	書き込み発言ふりかえり	場面の様子や登場人物の行動の叙述に着目して想像して読み，感想を交流し合っている。	場面の様子や登場人物の行動の叙述に着目して想像して読んでいる。	場面の様子や登場人物の行動を想像して読んでいる。
2	7	「いなばの白うさぎ」「国びき」「やまたのおろち」の中から学級新聞に載せるお話を１つ選び，理由を発表し合う。	３つの神話の中から選んだお話について，選んだ理由を明らかにしている。	発言ふりかえり	自分の選んだお話について他の神話と比べて理由をはっきりさせて発表している。	自分の選んだお話について理由を合わせて発表している。	自分の選んだお話について話している。

4　授業の実際

第１次では，まず３つの異なる神話に出会いそれぞれの神話の読み取りをして感想を交流しあった。資料１は，１つめの神話「いなばの白うさぎ」第２時の学習を終えたふりかえりである。

資料１
児童Ｂ：今日，いなばの白うさぎをして，わたしは，さいしょうさぎがかわいそうだと思いました。でも，今日やると，うさぎはかわいそうじゃなくていけないと思いました。なぜかというと，ワニをだましてあと１歩のとき「きみたちだまされたね。」と言ってわにがおこって赤はだかになったけど，わたしが思ったことは，うさぎは，だましたし，わには，うさぎがだましただけなのにかみつくのは，どっちもわるいと思いました。
児童Ｃ：今日国語で，いなばの白うさぎをやりました。みんなのいけんを聞いて，うさぎがかわいそうと思っていたけど，うさぎが悪いと気分がかわりました。なぜなら，うさぎがうそをついていて……。

「いなばの白うさぎ」では，白うさぎがかわいそうという意見と，白うさぎはずるいという意見が話し合う視点となった。上記の児童Ｂや児童Ｃのふり返りにあるように，「さいしょ～，でも，～」や，「みんなの意見を聞いて～いたけど……」のような文体が見られた児童は27名中21名おり，話し合うことで第１時と自分の考えを変えたり，強めたりしていることが伺える。それぞれの感想を交流し合う中で友だちの意見に気づき，自分の考えを見直して深めていく姿を見ることができた。いなばの白うさぎでは，話し合う視点がはっきりとしており，共通の一つの視点をもった話し合いができたので，考えを広げる学び合いとして成立することができたと考える。

２つめの神話として取り上げたのは「国びき」である。第４時のふりかえりには資料２のようなものがあった。

資料２
児童Ｄ：さいしょは，国びきってなんだろう？と思っていたけれど，読んでおもしろくて，おなじところ見つけまでできました。ちがうしんわでも同じところ見つけをしたいです。
児童Ｅ：今日国びきを読んで同じところがいっぱいありました。「国来い国来い」が４回ありました。あと，「国のあまりがあれば～」も４回ありました。４回もやるのはたいへんそうだなと思いました。
児童Ｆ：国をひきよせるのがすごいと思いました。４回もやるのもすごいと思いました。しまねけんが大きくなってよかったです。

「国びき」では，難しい語句がたくさんあり，内容理解のための説明をたくさん要した。しかし，語句が分かるとくり返しのおもしろさに気づいたり，スケールの大きさに気づいていくことができた。児童Ｅのように，ふりかえりの中でくり返しの表現に触れていた児童，スケールの大きさに触れていた児童，さらにくり返しの表現により，よりスケールの大きさを表していることに気づいている児童もいた。第４時は，語句の共通の理解をもって感想を交流する時間となった。

最後に「やまたのおろち」を取り上げた。資料３は，第６時のふりかえりである。

資料３
児童Ｅ：今日，やまたのおろちをしました。たいじをするのがおもしろいってＴくんは，そう言っていたけど，ふつうこわいはずなのにおもしろいっていうのは，少しちがうなと思いました。女の子はこわいけど，男の子はおもしろいんだなと思いました。おもしろいか？こわいか？で，あたらしいいけんがありました。
児童Ｇ：ぼくのいけんはやまたのおろちをペットにしたいです。りゆうはかっこいいからです。Ｍくんも同じいけんです。Ｔくんがスサノオがおろちをたいじするところがおもしろいって言ったけど，ぼくはスサノオがかっこいいと思いました。

最後に取り上げた「やまたのおろち」では，スサノオがかっこいいと感じる児童と，残酷だと考える対照的な意見が出て，学び合いの中で神話のもつ残酷さや生々しさにも触れることができた。ふり返りの中には児童Ｅや児童Ｇのような「○○君が～と言っていたけど」という特定の児童に対して意見を述べる表現をしていた児童が10名見られ，他の児童の意見を聞いて自分の意見をもつことができる話し合いとなった。また，今までに学習した「国びき」にもスサノオが登場したことから，神話と神話のつながりにも気づいていくことができ，読みを広げ，神話の特徴に気づくきっかけとなった。

第１次を受けて，第２次では「３つの神話の中から放送で紹介するお話を一つ選んで，選んだ理由を話し合おう」というめあてで，学び合いの中で神話の特徴に気づく活動を行った。第２次の授業場面をもとに，学び合いをつくるためのめあて，学習形態，教師のはたらきかけが子どもの変容に有効であったのかを検証した。

資料４
学級全体の話し合いの授業記録（第２次　７時）
Ｔ　　：３つの神話の中から放送で紹介するお話を一つ選んで，選んだ理由を話し合おう。
ペアで話し合った後全体で話し合う。
児童Ｈ：ぼくは，いなばの白うさぎがいいと思った。りゆうは３ページの12行目の「するとほんとうにふわふわの～」のところがよかったから。
児童Ｉ：そういうりゆうもあるんだねえ。
児童Ｄ：わたしは，国びきがいいと思った。りゆうは，わからないことばがたくさんあるからむずかしいかもしれないけど，べんきょうになるから。
Ｔ　　：あなたは，勉強になったの？
児童Ｄ：わたしは，みんなに教えられてべんきょうになった。
児童Ｊ：国びきがいいです。ヤツカミズオミツノという人が国をうごかせるところがすごい。
児童Ｇ：ヤマタノオロチがいいと思った。りゆうは，むずかしいことばもあるけど，アマテラスオオミカミとかきちんと聞けないこともあるだろうから聞く力がつく。
Ｔ　　：勉強になるって人が多かったんだけど，自分がこれがいいっていうのはない？
児童Ｋ：ヤマタノオロチがいいと思う。ぼくは，げきをしたことがあって，つるぎをとるところがかっこいい。
児童Ｌ：ヤマタノオロチがいいと思う。りゆうは，お話の中でヤマタノオロチとたたかうところがすごいと思ったからです。
児童Ｍ：わたしは，国びきにしました。みんなが知らない国もあるし，わたしもふしぎなかんじがするからです。
児童Ｉ：国びきがいいと思いました。なぜかというと，さいしょのところなんだけど，たくさん子どもが生まれてすごいと思ったからです。
児童Ｃ：ぼくは，国びきがいいと思います。ヤマタノオロチやいなばの白うさぎは知っている人が多いと思う。
Ｔ　　：自分がいいと思う理由はない？
児童Ｃ：（首をかしげる。）
（中略）
Ｔ　　：表を見て何か気づく？
Ｃ　　：ぜんぶの話にオオクニヌシがでている。
（このあと「表を見て」と続けるがなかなか発言が出ない。）
Ｔ　　：神話ってこんなお話だったなと思うことがある人？
児童Ｏ：今回ならった神話はぜんぶすごかった。
Ｃ　　：同じです。
児童Ｐ：しんわはすごいこともいっぱいあるし，ふしぎなこともいっぱいあるから…いいなと思った。

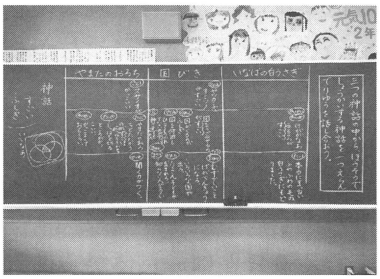
第７時は，全体での話し合いの前にペアで話し合うことを取り入れた。上に取り上げた授業でもペアで

の話し合いをもち，児童たちは喜んで話し合いを進めていた。ペアでの話し合いの中で児童Ｉは，「続きがどうなるかわくわくするよね。」と，神話を読む楽しさを隣の児童と話し合っていたが，全体での発言では，勉強になるから…と内容を変えてしまっている。ペアでお話の内容について感想を言い尽くしてしまっているところもあったように思う。ペアでの話し合いを全体での話し合いに生かすことをどのように考えればよいか再考する必要がある。

学級全体での話し合いでは，児童から出た放送で紹介したいという思いは，選ぶという話し合いに対する必要性をもたせるためには十分な動機付けとなった。しかし，児童Ｈ，Ｊ，Ｋ，Ｌがお話の感想から選んだ理由を述べているのに対して，児童Ｃ，Ｄ，Ｇは，「勉強になるから」という発言をしている。これは，相手にとってどの神話がよいかという視点があり，後の３つの神話に共通する点を見つけるための発言にはつながらなくなっている。３つの神話から１つを選んだ理由を考えることで思考を深めていくめあてを設定したが，めあての中に，「放送で紹介する」という視点が入ったため，自分の気に入ったという意識よりも相手意識が強くなっていることがわかる。始めに「自分がいいと思った神話を選ぶ」ことを伝え，途中でも「自分がどう思ったかを考えるんだよ」という流れを変える発問をくり返したが，なかなか視点のずれが埋まらなかったことがわかる。話し合いの動機づけがめあてと一致していなかったと言える。また，児童Ｈのように，文章から見つけ出してよさをとらえている児童や，児童ＮやＯのように登場人物の行動がかっこいいという点でよさをとらえている児童もいることから，教師が児童の発言の層をとらえ，神話をとらえる視点と結びつけておく必要があったと感じた。

ペアでの話し合いの様子

神話の特徴を考えるはたらきかけとして，右写真のように３つの神話を表にまとめ，児童たちの発言を整理し，板書した。児童の発言を生かす，整理して共通点を見つけやすくするという上でよかった点である。板書を用いながら，児童たちの出し合った感想の中の「すごい」「ふしぎ」というどの神話にも共通する感想を取り上げ，神話って神様が出てきてすごくて不思議なことをする話なんだなあと特徴をとらえることができた。知識をもっている児童Ｇでさえも学び合いを経て改めて神話ってすごい不思議な話なんだねという「すごい」「不思議」という２語ですとんと自分の中に落ちて納得する姿が見られた。



第７時の板書

第７時のあと次のようなふりかえりがあった。

資料５

児童Ｈ：また，いなばの白うさぎをえらびました。それは，さいしょ白うさぎが大けがをしてしお水がけがをなおすぞって言われてとびこんで，もっとけがが大きくなって，さいごがきずがなおるからです。

児童Ｂ：わたしは，３つの神話で，国引きとやまたのおろちでまよっています。理由は，国引きは，ヤツカミズオミツノがあまりの国を引いてすごいなと思ったし，やまたのおろちは，スサノオがさけをのませてけんでころしたからすごいなと思ったからです。

児童Ｄ：わたしが，国引きをえらんだわけは，国をひっぱるところがすごいと思いました。ちがうしんわをえらんだ人のいけんを聞いてなるほどと思いました。でも，やっぱり国引きにしました。さいごに国引きにきまってよかったです。

児童Ｈは，授業でもいなばの白うさぎがいいといい，ふりかえりで「また……をえらびました。」と書いているように，一貫して変わらなかったことが記述から伺える。しかし，「また」という言葉の中に，他の人の意見も聞いて考えたけれど，という意味をこめていると考える。児童Ｂは，２つの神話のどちらかで迷っていた。どちらもすごいところがあるけれど，内容は違うということをとらえて思考を深めているのが伺える。児童Ｄは，「ちがう人の意見もなるほどと思うけれど……」という表現をしていた。このように，友だちの意見と比べて表現している児童は12名程度であり，自分は○○のお話を選

んだとのみ書いているC評価の児童は0名で，いずれも理由を述べていた。根拠をもって自分の考えを表現できるようなっていることから，友だちの考えを認めた上で自分の読みを確かなものにしていることが分かる。

第3次は発展的な学習として，学級で選んだ「国びき」を録音し，お昼の放送で流した。聞いた児童たちからは，「神話を習うんだね。」「放送が上手だったよ。」という感想をもらい，児童たちは神話の学習をしてきてよかったとの思いを強くすることができた。

神話の学習を通してふり返ったところ次のような感想が多くあった。

- 神話をはじめてべんきょうしておもしろかった。
- 神話は一つしかないと思っていたけどいろいろあっておもしろかった。もっとほかの神話も読んでみたい。
- みんなで話し合ってたのしかった。
- ほうそうをしてみんなに聞いてもらってよかった。
- 神話にはいろいろなかみさまが出てすごいことをすることがわかった。

このように，本単元を通して初めて接した神話に児童たちが興味をもち，もっと読んでみたいという意欲をもつことができたと感じた。友だちの感想を聞くことで自分の考えを見直し，さらに考えを深め，読み広げへとつなげることができた学びの姿が見られたと考える。

4　成果と課題

成　果

○誘発型の話し合いによる共通言語の獲得が低学年の学び合いの成立にとって有効である。

低学年においては，互いの感想を交流し合い広げあう話し合いによって楽しいと感じ，さらに学習していこうという意欲につながり，読みを広げる上で有効であると考える。

○共通言語を見つけることで，具体から抽象へ思考を深める学び合いとなる。

3つの神話から1つを選び理由を発表することで自らの考えを明らかにし，表現することができる。さらに，友だちの理由を聞くことで自分と異なるまたは同じ考えを交流し合い，自分の考えをもう一度再考することができる。3つの異なる神話に共通することを見つけ出し，大きな括りである「神話とは」を考えることは，具体から抽象へ，下位概念から上位概念へ物事を考える帰納的な思考を育てることにつながるであろう。

○板書による発言の整理と発問の工夫は，学び合いを成立させる教師のはたらきかけとして有効である。

共通言語を見つけ出すために板書で児童の発言を整理し，注目させる発問をすることは，学び合いを成立させるために有効な手段であると考える。

課　題

○話し合いの動機づけと学習のめあての設定

児童が話し合いたいという意欲をもって学び合うための動機づけがめあてと一致するものでなければ，話し合いに異なる視点が入りめあての達成のさまたげとなる。課題とめあての一致を考えることが今後の課題である。

○教師のはたらきかけとして，児童の発言内容のレベル分け，とらえる視点の整理と児童の発言を深める準備をすることが大切である。教師のとらえる視点が具体的に児童のどのような発言となって出現するのかを予め結び付けておくことで児童の思考を深めることができるであろう。

○評価という点であいまいなところがある。何をもって達成されたか，一般化された評価の方法を見つけ出すことで研究を積み重ねていくことができると考える。　（文責　中村　紀恵）